
螺旋力の意味

シモン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

螺旋力の意味

【Nコード】

N9656V

【作者名】

シモン

【あらすじ】

テツペリン攻略線から5年。

人々は平和に暮らし、何も問題など起こらなかった。

ある日、ロシウは何者かに攻撃を受ける。

リーロンがカメラや傷跡から割り出した犯人は・・・！

0 プロローグ

テッペリン攻略線から5年。

人々は知恵を出し合い、街を創り出し、進化していった。しかし、その事件はあまりにも唐突に起こってしまった。

ある日の事だった。

ロシウは部屋で建設を間近にするビルの書類を最終チェックしていた。

コンコン。

ドアの外で、ノックの音がした。

「はい、どうぞ」

シュツとドアが開く。

その直後、鈍い音とロシウが崩れ落ちるが部屋に響いた。

ロシウを発見したのはキノンだった。

ロシウの左腕と頬、それと腹部からは血が流れていた。

0 プロローグ（後書き）

乙女の雑談

ニア「どもこんにちは。いえ、初めましてでしょうか？あ、でもアニメでお会いしましたよね。ついでに小説版では・・・」

ヨーコ「前フリが長いっ！とつと言えはいいの。ヨーコです。ほら！」

ニア「はい。ニア・テッペリンです。」

リーロン「リーロンです」

ヨーコ「...リーロン、タイトル見た？」

リーロン「冗談よ、冗談！」

ヨーコ「×！？！！！」

（ヨーコは怒りながら、リーロンは笑いながら大騒ぎする。）

ニア「というわけで、『螺旋力の意味』！！読んで下さいね！では」

1 「コンピューターが解析した結果なのよ」

ロシウは病院で目覚めた。

「シモンさん・・・？」

「ロシウ！目を覚ましたか！」

ロシウはうつろな目で部屋を見回した。

部屋の端っこには、キノンが居た。

シモン「ロシウ、お前撃たれた時の事、覚えてないか？」

ロシウ「いえ、部屋が暗くて、顔は見えませんでした。」

シモン「そうか」

シモンはキタン達にロシウの事を話した。

そこにはギミーやダリーも居た。

「怪我は酷かったんですか？」

ダリーとギミーはすっかり成長し、今は12才になっている。

ロシウは小さな頃から共にいた仲間だ。

心配するのも無理はなかった。

「犯人は？解ってるんですか！？」

ギミーが食い付いて来た。

「いや、まだ解ってない。リーロンが解析をしている最中だ。」

二人は「はぁ・・・」とため息をついた。

ロシウはリーロンに呼ばれ、超高性能コンピューターが置いてある部屋に行った。

コンピュータールームのドアをノックし、入る。

「リーロンさん、どうしましたか？」

リーロンは少し暗い顔をして、口を開いた。

「…犯人が解ったわ」

ロシウはその言葉を聞き、心の中で「やった！！」と言いながら微笑んだ。

「だ、誰なんですか？」

リーロンは何も言わずモニターを指差した。

モニターに映っていた人物は

「…信じられないだろうけど、コンピューターが解析した結果なのよ」

1 「コンピューターが解析した結果なのよ」（後書き）

乙女の雑談

キヤル「おーっす！キヤルだー！」

キノン「キノンです。アニメでもお会いしましたよね。小説版では・
」

ヨーコ「ニアと同じ事言わなくていいっ！」

キノン「ふぐっ（ヨーコ、キノンの頭にチョコップを喰らわす。）」

キヨウ「どうも、キヨウです」

ニア「そういえば、キヨウさんってメイクが濃いですよね。」

キヨウ「乙女の雑談だから。」

ニア「？」

ヨーコ「はいはい、聞かなくていいの。」

ニア&キノン「では引き続き『螺旋力の意味』をお楽しみ下さい！」

2「時間の流れはなんて速いのだろうか」

一方その頃、シモンはグレンラガンを眺めていた。

（最近は戦いもない。平和になった今はグレンラガンも必要ないのか・・・）

シモンはグレンラガンの脚に触れた。

遠くから見ればぴかぴかに磨かれている表面だが、間近で見れば細かい傷が数多く残っている。

「そういえば、あの頃は兄貴と一緒に乗っていたんだな・・・」
そう。

もう五年前になる。

あの、あまりにも唐突すぎた兄貴の死は。

「時間の流れはなんて速いのだろうか・・・」

そして、シモンは顔を上げた。

コン。

背後で微かに物音がした。

とっさに振り向く。

後ろには人が立っていた。

しかしその人間の髪は、緑色に光っていた。

顔は見えない。

「誰だ？」

シモンがまさにそう言おうとしたその時。

ガンッ。

銃声が響く。

シモンめがけて飛んでくるのは、弾だった。

「うわ!？」

弾はシモンの左頬をかすった。

「っ・・・」

相手が逃げた。

この薄暗い中、あの緑色に光っている髪は目立つ。

「おい！待て！」
しかし。

「シモンさん！シモンさん！？」

声の主はロシウだ。

だが、目が開けられない。

「シモンさん！！！」

目を・・・何故開けないんだ・・・？

「シモンさん、意識はあるんですか？！」

「・・・ああ」

「もうすぐで救急車がきますから、動かないで下さい！」
救急車？

そう言われてから気づいた。
手も動かない。

自分の手にまわりつくこの液体は 血か？

わからない。何故自分の体がこのように動かないのか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9656v/>

螺旋力の意味

2011年10月10日06時50分発行